

令和5年10月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和5年10月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

八戸駅西口と多目的アリーナ「フラット八戸」を結ぶ「シンボルロード」で9月30日、初の歩行者天国イベント「HACHINOHE FESTIVAL (八戸フェスティバル)」が開催されました。

イベントは全員でのラジオ体操で幕開けし、市立三条小のよさこいや、市立三条中のブラスバンド、県立八戸西高校の簡易エクササイズなどが披露されました。

同地区に来春、トランポリンパークを核とした複合商業施設「エルロン・ウェスト・ビレッジ」を整備する北辰工業は、トランポリン体験会を開催し、子どもたちの人気を集めました。

また、JR 東日本では制服の試着体験や新幹線の車内販売員による売り歩きなども行われたほか、キッチンカーが出店する飲食ブースも設けられ、大勢の来場者が健康と運動をテーマにした企画や住民同士の交流を楽しみました。

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-2 全国都市会館 5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸10月号 レポート

令和5年9月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

記事	概要
(1)	国立公園指定10周年シンポジウム 種差海岸保全の在り方は
(2)	八戸・魅力創生ネットワーク会議 親子で未来考える機会を
(3)	八戸版モーダルコンビネーション 物流の優位性 市が発信
(4)	八戸中心街 みちニワ好評 1車線を出店やライブの空間に
(5)	在留外国人 県内最多の八戸 日本語教育 高まる重要性
(6)	八戸市 8サポ機能強化 起業支援へ交流基盤
(7)	八戸市 第3次環境基本計画及び第2次地球温暖化対策実行計画区域施策編策定

## 【産業】

記事	概要
(8)	糠塚きゅうり普及目指せ 生産者などがイベント
(9)	はれわたり 待望の稲刈り
(10)	吉田屋（八戸） 海鮮駅弁で食中毒 全国に拡大
(11)	八戸地域活性化 地元出身・吉田さんら慶應大生が新風
(12)	八戸で中心街活性化フォーラム 再生の機運 市民が後押しを

## 【地域】

記事	概要
(13)	八食オータムカーニバル 各店自慢の料理に長い列
(14)	八戸・みろく横町 若手3人が「流し」
(15)	老舗・柏木旅館（八戸）にイベントホール 人が集える新たな場所を
(16)	八戸水産高生「成長した姿見せる」ハワイ海域で航海実習

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	移動型山車 本格活用へ はちのへ山車振興会イベント出展
(18)	東京パラ日本代表 天摩さん（八戸出身）講師に 八戸・豊崎中生がゴールボール体験
(19)	元日本代表 澤さん、岩淵さんと交流 八戸で小学女児対象にサッカー普及イベント

【行政】

記事	
(1)	<p><b>国立公園指定10周年シンポジウム 種差海岸保全の在り方は</b></p> <p>今年5月、八戸市の種差海岸が三陸復興国立公園指定10周年を迎えたことを受け、八戸市は9月3日、市公会堂文化ホールで記念シンポジウムを開いた。作家の椎名誠さんが種差でのエピソードを交えながら、「宇宙に誇る種差海岸」と題して基調講演。パネルディスカッションでは、椎名さんのほか、ネイチャーガイドVayuの関下斉代表、八戸工業大の鮎川恵理准教授、ACプロモートの町田直子代表、環境省八戸自然保護官事務所の西澤文華自然保護官の5人がパネリストを務めた。市民ら約200人が参加し、種差の現状や課題などに理解を深めながら、次世代への継承に向けて自然環境の保全や持続可能な利用の在り方について考えた。</p>
(2)	<p><b>八戸・魅力創生ネットワーク会議 親子で未来考える機会を</b></p> <p>若者や女性が魅力を感じられるまちづくりの実現を目指し、八戸市が立ち上げた「市まちの魅力創生ネットワーク会議」が9月4日、本年度に取りまとめた政策提言を熊谷市長に提出した。高等教育機関や経済団体の関係者、働く女性ら10人で構成するネットワーク会議は市長の政策公約事業で、昨年度発足。本年度は、小学5年から高校3年までの子どもたちとその親に焦点を当て、「将来を夢見る8年間でわたしの翼になる」をテーマに設定。教育機関と事業者が連携して行う「中心街バイト」や子ども自ら企画する「自修学旅行」、ゲーム感覚で進路の理解を深める「デジタルキャリアノート」など、親子で未来を考える機会を提案する12の政策案を示した。</p>
(3)	<p><b>八戸版モーダルコンビネーション 物流の優位性 市が発信</b></p> <p>トラック運転手の時間外労働が規制され、物流危機が懸念される「2024年問題」を踏まえ、八戸市は複数の輸送手段を組み合わせた八戸版モーダルコンビネーションの物流拠点としての立地優位性を発信している。市はこれまでも、首都圏などで開催する「八戸セミナー」などで多様な交通インフラがある地域の特性をアピールしてきた。国内外と結ばれた八戸港を中心に高規格道路網、鉄道、新幹線、空路など柔軟な輸送体系を実現できる。今後も、2024年問題やカーボンニュートラルへの対応など、物流が大きな転換期を迎える中、産業都市・八戸として企業誘致に向けた発信力を強めていく。</p>
(4)	<p><b>八戸中心街 みちニワ好評 1車線を出店やライブの空間に</b></p> <p>八戸市が中心街で8月31日から9月11日まで実施した、まちなかストリートデザイン事業の実証試験「みちニワ」に関し、市は来場者アンケートで好意的な意見が多く寄せられたことを明らかにした。実証実験は三日町から十三日町にかけての国道340号を1車線規制し、出店やライブなどを楽しむ空間とするもので、にぎわい創出効果や交通への影響などを調査した。アンケートには、ゆっくり過ごせてよい、続けてほしいなどの好意的な意見が多かった一方で、渋滞への苦情などが電話やメールで寄せられたという。今後、データを検証し「ストリートデザインビジョン」の策定に生かす方針。</p>
(5)	<p><b>在留外国人 県内最多の八戸 日本語教育 高まる重要性</b></p> <p>今後も増加が見込まれる国内で暮らす外国人に対し、日本語教育の重要性が高まっている。八戸市は在留外国人数が県内で最も多く、2022年12月末時点で1371人。職場や地域で安心して生活を送る上で、日本語によるコミュニケーションは不可欠だが、一方で日本語教室の運営費や活動場所の確保に加え、外国人を受け入れる事業所への教育費の負担など、課題も多い。市は今後、政府有識者会議の最終報告の内容を踏まえ、外国人労働者を雇用する事業所への日本語教育や移住支援についての必要性を検討する考え。</p>

(6)	<p><b>八戸市 8サポ機能強化 起業支援へ交流基盤</b></p> <p>八戸市は9月25日、地域の経済界で活躍する人材の積極的な発掘に向け、交流基盤となる「起業支援プラットフォーム事業」を開始すると発表した。「はちのへ創業・事業継承サポートセンター（8サポ）」の機能を強化し、起業に関心がある市民らによるコミュニティーを組織する。コミュニティーは目的ごとに「学生起業チャレンジ」「スモールビジネス」「新ビジネス創出」の三つで、それぞれ市場リサーチやワークショップ、セミナーなどを行う。また、活動や連絡・調整を図るためマネージャーとコーディネーターも配置する。起業への関心、起業希望者の支援、起業家同士の交流促進など、プラットフォームを拠点とするサイクルを生み、八戸オリジナルのスタートアップシステムを構築したい考え。</p>
(7)	<p><b>八戸市 第3次環境基本計画及び第2次地球温暖化対策実行計画区域施策編策定</b></p> <p>八戸市は9月25日、環境の保全及び創造に関する施策を推進する第3次八戸市環境基本計画を策定したと発表した。市が目指す「人と自然が共生する持続可能な都市」の環境像の実現に向けて、「自然共生社会づくり」「快適環境社会づくり」「脱炭素・循環型社会づくり」「良好な環境を支え次世代へつなぐ人・仕組みづくり」を基本目標とし、18の施策を定めた。課題解決に向け、SDGsや地域循環共生圏の考え方も取り入れて市の特性を活かした施策を推進する。また、市内の温室効果ガス削減計画を盛り込んだ第2次地球温暖化対策実行計画区域施策編も策定。「2050年カーボンニュートラル」の実現を見据え、令和12年度の排出量を平成25年度比で50%削減することを目指し、再生可能エネルギーの導入促進など四つの施策を定めた。</p>

【産業】

記事	概要
(8)	<p><b>糠塚きゅうり普及目指せ 生産者などがイベント</b></p> <p>八戸の伝統野菜「糠塚きゅうり」のファン獲得に向け、生産者らが「はっち」やレストランなどでイベントを開催した。糠塚きゅうりは江戸時代を起源とし、ずっしりとした太さやパリパリとした食感、ほのかな苦みが特徴で1950年代まで糠塚地区で生産されていたが、現在では生産数が減少。オンラインショップで全国から注文が寄せられるほど注目度は高い一方、食べ方はみそを付けて生食するのが一般的。作物自体の魅力を伝えるとともに、調理法の普及や飲食店での提供を模索する。関係者は「八戸の夏の味覚として広く魅力を発信し、伝統文化の再興を図りたい」と意欲を示す。</p>
(9)	<p><b>はれわたり 待望の稲刈り</b></p> <p>八戸市南郷島守では、今秋本格デビューをする青森県産米の新品種「はれわたり」の刈り取りが始まった。5月中旬の田植えから天候におおむね恵まれ、病害などなく生育したが、記録的な暑さで狩り始めは昨年より8日早いという。青森県産業技術センター農林総合研究所によると、8月31日時点の登熟歩合は、85.9%で、昨年の試験栽培時44.6%を大幅に上回った。生産者は、「収穫できたうれしさも、おいしくできたかという緊張感もある。みんなに喜んでもらえるコメであってほしい」と願いを込めた。</p>

<p>(10)</p>	<p><b>吉田屋（八戸） 海鮮駅弁で食中毒 全国に拡大</b></p> <p>八戸市の駅弁製造会社「吉田屋」の駅弁を食べた人が体調不良を訴えた問題で、八戸市保健所は9月23日、原因物質が黄色ブドウ球菌とセレウス菌による食中毒と断定し、同日から同社を営業禁止処分とした。同社は17日からすべての弁当の製造や販売を自粛している。駅弁は五つの商社を通じて33都道府県に流通しており、患者数は10月4日時点で29都道府県計520人に上り、発生から2週間以上たっても被害が拡大している。同社は、一部の食材を青森県外の業者に委託しており、「受け入れにあたって必要な作業を十分に行わず、付着していた菌が増殖したと考えている」とコメントを発表した。市保健所が原因の特定を急いでいる。</p>
<p>(11)</p>	<p><b>八戸地域活性化 地元出身・吉田さんら慶應大生が新風</b></p> <p>慶応大総合政策学部4年の吉田悠馬さんが八戸出身であることが縁で、同大湘南藤沢キャンパスの学生が、八戸地域のまちづくりを考えるプロジェクトに取り組んでいる。かねてより八戸での活動を提案してきた思いが実り、今夏八戸に滞在し、廃校を活用したまちづくりをテーマに旧小舟渡小（階上町）のリノベーションプランを考案した。大学では10月から、JR陸奥湊駅前地区周辺のまちづくりを行う「みちのくみなと未来」の駒井庄三郎社長（八戸酒造社長）が講師として協力する八戸地域をテーマにした講座も始まる。首都圏の大学で学ぶ学生から見て、八戸には何が足りず、何が魅力的な資源に映るのか、まちづくりの新たな可能性が広がる。</p>
<p>(12)</p>	<p><b>八戸で中心街活性化フォーラム 再生の機運 市民が後押しを</b></p> <p>八戸地域社会研究会が主催する中心市街地活性化フォーラム「ほしい未来の中心市街地」が9月30日、「はっち」で開かれた。フォーラムは、研究会が今年まとめた中心街に関する市民アンケートの調査結果を踏まえ、市民と目指すべき中心街像を探るために開催。中心街関係者や一般市民ら約100人が出席し、パネルディスカッションではさまざまな立場の6人が登壇。中心街に求めるものや課題、独自の魅力などについて意見を交わし、中心街再生に向けた機運を市民が後押ししていくことが重要と呼びかけた。</p>

【地域】

記事	概要
<p>(13)</p>	<p><b>八食オータムカーニバル 各店自慢の料理に長い列</b></p> <p>八戸市の八食センターで9月17日と18日、市内外の有名飲食店が一堂に集まる「八食オータムカーニバル」が開催された。同センターが主催し、7回目となる今年は、和洋のレストランやコーヒー、キッチンカーなど過去最多となる22店が参加した。パスタやから揚げ、スベアライブなど各店が人気メニューやイベント限定の商品を提供し、食欲を誘う香りが漂う会場には長蛇の列ができた人気店もあった。バンドの野外ライブも開かれ、会場は多くの来場者でにぎわった。</p>
<p>(14)</p>	<p><b>八戸・みろく横町 若手3人が「流し」</b></p> <p>八戸市中心街のみろく横町で9月5～9日まで、若手エンターテイナー3人が即興の生演奏などを披露する「流し」イベントが行われた。流しは昭和期までの歓楽街で流行し、カラオケの普及などに伴い衰退したものの、近年は若手を中心に再興の兆しを見せている。今回は、シンガー・ソングライターのタクトくん、おおきあさみさん、イラストレーターのみしゃみしゃちゃんの3人が、木琴を提げて、オリジナル楽曲を熱演したり、似顔絵を仕上げたりと、酔客のリクエストに応じ、それぞれのパフォーマンスで酒場を盛り上げた。</p>

(15)	<p><b>老舗・柏木旅館（八戸）にイベントホール 人が集える新たな場所を</b></p> <p>八戸市寺横町にある104年の歴史を持つ老舗「柏木旅館」内に9月8日、イベントホールがオープンした。1919年創業以来、施設の増改築を行いながら旬の料理と心のこもったサービスでもてなしてきた老舗旅館には、これまでに俳優の役所広司さんや大竹しのぶさんらも足を運んだという。今回改修したのは、旅館奥にある客室3部屋で、レトロな雰囲気醸す約40平方メートルのイベントホールとなり、演劇や音楽ライブなどの開催が可能。旅館を運営する柏木七穂さんは、人が集える新たな場所として定着してほしいと期待を込める。</p>
(16)	<p><b>八戸水産高生「成長した姿見せる」ハワイ海域で航海実習</b></p> <p>青森県立八戸水産高の水産工学科2年生17人や専攻科の学生、乗組員ら計51人が9月7日、ハワイ北西海域で国際航海実習を行う実習船青森丸（698トン）に乗船した。八戸港で行われた出航式には、在校生約150人や保護者らも訪れ激励した。実習では、マグロはえ縄漁業に取り組むほか、航海当直、機関当直、漁具製作など漁業や航海に必要な作業を実践する。実習生を代表し、水産工学科2年西村京太さんが「成長した姿を見せられるよう、感謝の気持ちを持って実習に取り組みたいです」と意欲を示した。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	<p><b>移動型山車 本格活用へ はちのへ山車振興会イベント出展</b></p> <p>八戸三社大祭の全27山車組で組織する「はちのへ山車振興会」は、イベント出展向けに制作した移動型山車の本格活用に乗り出している。これまでも市内などのイベントで出展をしているが、9月23、24日に平川市で開催された「あおり10市（とし）大祭典」では、初めてパーツを分割してトラック、トレーラーなどで運搬した出展となった。10月に市内で開催される「全国都市問題会議」でも市庁前に展示される予定。関係者は、新型コロナウイルス収束後の観光誘致客を見据え、オール山車組で合作した特別な山車を青森県内外でも披露し、祭りや八戸のPRに生かしたいとの展望を描いている。</p>
(18)	<p><b>東京パラ日本代表 天摩さん（八戸出身）講師に 八戸・豊崎中生がゴールボール体験</b></p> <p>東京パラリンピックでゴールボール女子日本代表の主将を務め、銅メダルに導いた天摩由貴さん（八戸出身）を招いてのゴールボール体験会が9月20日に市立豊崎中で開かれた。市が行うスポーツ大使ふるさとセミナーの一環。参加した生徒24人はアイシールド（目隠し）を使い、誰もが同じ条件で戦えるパラ競技を通じて障がいについて理解を深めた。天摩さんは、11月にパリ大会の選考に関わるアジア・パシフィック選手権が控えており、「優勝してパリへの切符をつかみたい」と力強く語った。</p>
(19)	<p><b>元日本代表 澤さん、岩淵さんと交流 八戸で小学女児対象にサッカー普及イベント</b></p> <p>女子サッカーの魅力とディズニー映画の世界観を融合させたファミリーサッカーフェスティバル「ファーストタッチプレミアム」が9月18日、八戸市のプライフーズスタジアムで開かれた。日本サッカー協会と青森県協会の共催で、県内では2回目。高校の女子サッカー部員らが運営を支え、親子計120組が参加した。イベントには女子サッカー界の“レジェンド”の澤穂希さんと、9月上旬に現役引退した岩淵真奈さんも来場。競技初心者の小学1～3年の女児たちが、元日本代表の2人と一緒にボールを追いかけてサッカーの楽しさにふれた。</p>

はちのへ

## ふるさと寄附金のご案内

### 『ふるさと寄附金』で八戸を元気に!

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただく寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただきます。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!



### ふるさと寄附金の3つの魅力

#### ① 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

#### ② 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

#### ③ お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

## 八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 番沢 啓司 [主事] 前田 哲 [事務員] 浜井 章代

### 申込み方法

#### 郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



#### インターネット

- 下記2つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス

楽天ふるさと納税



### 送付先

#### 八戸市 広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

※担当部署が住民税課から広報統計課に変わりました。

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。